

地区名：五箇地区

実施主体：五箇地区むらづくり推進協議会

1 基本データ

- 地区人口 46人 (R2.4.1 現在)
- 世帯数 24世帯
- 行政区数 4行政区
- 面積 約146平方キロメートル
- 地区の沿革

五箇地区は、上打波、下打波、東勝原、西勝原の4集落(行政区)で構成され、市街地から約8km東南の位置にあり、西は「日本百名山」の「荒島岳」、東は赤兎山と白山連峰、岐阜県に接し、面積は146km²と広大な林野を占める中山間地域である。



仏御前の滝



魚止



紅葉の刈込池

2 現状と課題

かつての五箇地区は、林業が栄えるとともに、スキーやキャンプ、登山などのアウトドア・レジャーに、また、風光明媚な「刈込池」や「仏御前の滝」、九頭竜川の「魚止め」などを訪れる観光客が多く、民宿業が盛んに行われ、一年を通じて賑わいの絶えない所であった。

しかし、相次ぐ災害やダム建設による移住、観光客ニーズの変化による観光業の低迷などから人口の流失と少子高齢化が進行し、それに伴い、小・中学校や郵便局、JAの支所が廃止され、地域の活力は衰退していった。

現在は、JR勝原駅のある西勝原区を中心に、東勝原・上打波・下打波の4集落に24世帯46名が生活をしている。また、無雪期には、市街地から畑や山仕事に通う五箇地区出身者の姿も多く見られるとともに、神社では祭りが催されている。



下打波区祭礼

また、本協議会が実施する「花いっぱい運動」により、JR勝原駅周辺を季節の花で飾り、五箇地区への訪問者を出迎えたり、近所の婦人によって約40年前から植樹された花桃並木が、春になると“桃源郷”として注目を集め、満開の季節には遠く中京や関西から観光客が訪れるまでになるなど、「豊かな自然を活かした交流」を目指して、地区住民が一体となり“ふるさと五箇”の活性化に向けて取り組んでいる。



JR 勝原駅



花桃並木

3 事業の内容

令和2年度の取組は、昨年度に引き続き、花いっぱい運動による地区の環境美化と花桃シーズンの西勝原区の交通渋滞対策として、週末の臨時駐車場の設置とシャトルバスの運行を計画した。

・シャトルバス運行の中止

新型コロナウイルス感染症の影響で、地区に来訪を促すシャトルバスの運行を中止した。

しかしながら、花桃の開花と共に来訪者は増加したため、路上駐車対策や臨時駐車場利用の呼びかけ、感染防止対策を呼び掛ける看板設置などを行った。

・花いっぱい運動

新型コロナウイルス感染防止のため、一部予定を変更し、対策を行ったうえで花苗の植栽を行い、地域の住民のコミュニティの醸成、環境美化を図ることができた。



看板・カラーコーン設置



花の植栽

4 事業の成果

看板・カラーコーン・臨時駐車場を設置して交通渋滞対策を講じたが、シャトルバスを中止したことや、新型コロナウイルスの影響で屋外のレジャーに注目が集まったことで、例年より渋滞がひどかった。成果としては、交通対策をしたことでかろうじて生活道路の確保ができたといえる。

また、少数の区民が集い花を植え、地域の活性化に資することができた。

5 今後の展望

花桃公園を活用したイベントの開催は、地区住民をはじめ、五箇に縁のある方々が、「五箇の良さ」を再認識する良い機会となり、また、多くの来訪者を受け入れることで、地区に賑わいを創造することができている。

半面、地区内の道路が渋滞し、地区民の生活にも支障をきたす事態も生じている。

人口減少や高齢化の進行による地域の減退を少しでも食い止めるため、今後も地区の“宝”である、花桃を核とした取組みを継続し、住民と来訪者が交流する機会や場を残していくべきであるが、地区の生活を守ることを優先して活動を続けていくべきである。

豊かな自然を生かした交流拠点の保持と地区住民のおだやかな生活をどのように両立し地域づくりを進めていくかが求められている。